

日本船主協会、駐日ノルウェー大使館主催セミナーに登壇
～脱炭素化に向け官民学一丸となった取り組みの重要性を強調～

当協会の土屋副会長は、駐日ノルウェー大使館が12月8日に都内で開催した「日本・ノルウェー グリーンパートナーシップ セミナー」のパネルディスカッションに登壇しました。本セミナーはノルウェー王国のストーレ首相とヴェストレ貿易・産業大臣の来日の機会を捉え、再生可能エネルギーへの転換や海運業界の脱炭素化の実現に向けた両国の協力をテーマに行われたものです。土屋副会長はパネルディスカッションの中で、当業界がネットゼロを目指すためには新燃料の供給体制の整備も重要となること、(参画する)様々なステークホルダーがその業界や立場を越えて連携した抜本的な取り組みが重要になると指摘。さらに、脱炭素化に向けた取り組みにおいてその正解が一つでない中、グリーン技術を積極的に活用する船主が後から策定された環境規制により不利益を被るような事態が回避されるべきとの見解を述べました。

また、当協会は同セミナーの前にノルウェー船主協会幹部と会談しました。その中で、地政学的不確実性が高まる中での航行安全確保の問題や、国際海事機関(IMO)で現在検討中のGHG削減に向けたカーボン・プライシング等について意見交換を行った他、長年にわたる両船協の親密な協力関係を今後更に強化していくことを確認しました。



写真左：パネルディスカッションで発言する土屋副会長（左から3番目）

右：当協会・ノルウェー船協関係者集合写真

(左から森重理事長、土屋副会長、ノルウェー船協 アンドレアス・エンガー理事（ホーグオートライナーズ CEO）、同船協 ヒーレン・トフテ常務理事、大森常務理事、平尾海務部長)

以上